

市民交流や練習の場に

筑波学院大 サッカー場完成式典



筑波学院大サッカーフィールド完成を祝う記念のテープカット。つくば市吾妻

4月の使用開始を前に、つくば市吾妻の筑波学院大サッカーフィールド（愛称・Tフィールド）の完成記念式典が27日、現地で行われた。同大のスポーツビジネス教育や授業、サッカーのつくばFCの練習場、市民の生涯スポーツの場などに活用される方針。

同大を運営する学校法人東京家政学院、NPO法人つくばフットボールクラブ（同市稲岡）、市の3者は昨年6月に「スポーツのまちつくば」の実現を目指して協定を締結。同NPO法人が同大敷地の1万800平方メートルを人工芝グラウンドを整備した。

式典で東京家政学院の沖吉和祐理事長は「昨年締結した協定書の第一歩の事業となる。Tフィールドを市民の憩い、交流にぎわいの場に活用してほしい。おめでとう。」とあいさつ。

同NPOの石川慎之助代表は練習場となるグラウンドの完成を喜び、「選手たちには頑張ってトレーニングをしてもらい、つくばを代表するクラブやチームに成長していつてほしい」と述べた。

来賓あいさつした市原健一市長は「つくば市にとってスポーツの普及振興に大きな役割を果たすとともに、地域活性化と多くの皆さまにスポーツの素晴らしさを知ってもらうことを期待したい」と述べた。

この日はつくば市役所サッカー部とつくばFCレディーズによる記念試合が行われた。Tフィールドの愛称は公募で決まり、同大学生がエンブレムを作成した。

（橋本ひとみ）



つくば市役所サッカー部とつくばFCレディーズによる記念試合。つくば市吾妻

同日はつくば市役所サッカー部とつくばFCレディーズによる記念試合が行われた。Tフィールドの愛称は公募で決まり、同大学生がエンブレムを作成した。

（橋本ひとみ）